

令和2年 栃木市長 新年の抱負 (要旨)

○年頭のあいさつ

- ・ 去年は、台風19号に伴う記録的な大雨により、これまでに経験したことのない甚大な被害が発生した。
- ・ 被災された方、避難をされた方の生活支援に、最大限の努力をしてきた。
- ・ 復旧・復興に向けた取り組みについては「栃木市復旧ロードマップ」を基に「被災者の生活再建」、「地域経済の再生」、「公共施設・インフラ等の復旧」に全庁を挙げて取り組む。
- ・ 今回の災害から得られた教訓を踏まえ、「栃木市国土強靱化地域計画」を策定し、災害に強いまちづくりに取り組む。

【危機管理課 0282-21-2551】

【総合政策課 0282-21-2302】

○新生栃木市10周年について

- ・ 令和2年度は、新生栃木市10周年の節目を迎える年。
- ・ 秋には記念式典の挙げるほか、2年に1度のとちぎ秋まつりや熱気球日本選手権、市民ミュージカルなど、市内各所で様々な記念事業が開催される予定。
- ・ 市民が主体の住みよいまちづくりを推進するため、「市民憲章」の制定作業を進めている。
- ・ 発表については、記念式典にて公表する。

【文化課 0282-21-2495】

【総務課 0282-21-2342】

○シビックコア地区整備計画について

- ・ 「シビックコア地区整備計画」は、栃木駅周辺地区の魅力とにぎわいの創出を目指し、官公庁施設や民間建築物等の整備を総合的かつ一体的に実施するもの。
- ・ 官公庁施設としては、栃木税務署、栃木公共職業安定所(ハローワーク)が入居する、国の合同庁舎が本年中に完成する予定。
- ・ 民間事業者が整備を進める(仮称)シビックセンター・複合施設は、ホテルやマンション、飲食店などが整備される。
- ・ 栃木駅周辺は、本市の玄関口、また、顔となる場所であり、早期の完成が図られるよう連携して取り組んでいく。

【都市計画課 0282-21-2433】

○「東京2020オリンピック・パラリンピック」への取り組みについて

- ・ 3月29日(日)に行われる本市での聖火リレーでは、嘉右衛門町伝建地区やとちぎ蔵の街大通り、巴波川沿いなど、蔵の街並みを背景に実施される予定であり、栃木市らしさを前面に出した演出にしたい。
- ・ 本市はハンガリーを相手国にホストタウン登録をしており、大会前の7月には、メダルの有力候補である近代五種チームによる事前キャンプを予定している。

- ・ホストタウン活動を通して、市内でオリンピック・パラリンピックの機運を高め、スポーツが持つ魅力や感動を分かち合えるよう、市を挙げて盛り上げたい。

【スポーツ連携室 0282-21-2591】

○その他

- ・本市の将来を見据え、栃木、都賀、佐野・藤岡インターチェンジ周辺の開発、(仮称) 都賀・西方スマートインターチェンジの整備等を進める。
- ・「大平ぶどう団地」から「いわふねフルーツパーク」、「道の駅みかも」へと続く街道を活かして、食と賑わいを生み出すような取り組みを進める。
- ・「栃木シティフットボールクラブ」や「栃木ゴールデンブレーブス」など、プロスポーツチームと連携し、幅広い世代が生き活きと楽しめるよう、様々な観点から、各種施策を進める。
- ・本市は、豊かな農産物や、豊富で良質な水に恵まれ、首都圏の食糧供給基地として発展してきた。
- ・古くは、舟運により、農産物や加工品などを江戸に運ぶ、物資の集散地として発展した歴史がある。
- ・合併して大きくなった栃木市は、県内で農家戸数が最も多い自治体となり、近年では食品関連企業の進出などにより、食料品関連製造品出荷額等においては、県内2位となっている。
- ・“食”に関連した優位性は、まさに、栃木県が進めるフードバレー構想の縮図であり、それらをどう活かしていくかが、今後の本市のキーワード、あるいは、羅針盤の1つと考える。
- ・新たな産業団地の整備等を検討していくとともに、「農・福・商・工の連携」を押し進める。
- ・本市が持つ“食”と“スポーツ”、そして観光などの地域資源を最大限に活用し、地域の活性化、産業の発展、雇用の場の確保に繋げ、地域経済が成長・発展し、“活力あふれる栃木市”となるよう、努める。
- ・栃木市は、自然、歴史、文化に恵まれた魅力的なまちであり、その魅力を十分に活かしながら、市民が安心して暮らせる心の通った「強く優しいまちづくり」を目指し、本年を「復興の年」と位置づけ、新たなステージに向けて前進する。

シティプロモーション課
担当 石川
電話 0282-21-2315